

資 料

フロリダアトランティック大学における コミュニティへのケアリングの取り組みの視察

岩本里織¹⁾, 岸田佐智¹⁾, Charlotte Barry²⁾, Locsin Rozzano¹⁾

¹⁾徳島大学大学院医歯薬学研究部, ²⁾Florida Atlantic University, Christine E. Lynn College of Nursing

要 旨 2017年3月に徳島大学と連携協定を締結しているフロリダアトランティック大学看護学部（以下、FAU）を訪問し、コミュニティにおけるケアリング活動に関する視察を行った。

Community Health Center at West Gate は低所得層が多く住む地域において住民の保健・医療へのアクセスを確保するために、FAU が助成金を確保して設立し運営している施設である。Louis and Anne Green Memory & Wellness Center は、大学敷地内に FAU が助成金を得て設立し運営している認知症などの方への通所施設である。Head Lice solutions は、教員が調査研究を行いながら協力して実施しているアタマジラミへの対策である。Light of The World Clinic は、寄付と専門職らがボランティアによって協力して運営されているクリニックであり、移民等の多い地域の人々への保健・医療を提供する施設であり、FAU の教員がボランティアの Nurse Practitioner として診察を行っていた。

このような大学が運営したり協力しているコミュニティへの活動は、健康の不利益を生じている人々への不平等を取り除くための取り組みや、コミュニティで生じている問題への対応のための取り組みであった。大学が実践活動を行いながら、調査研究を推進し、さらに学生への実習施設としても活用され、非常に有用な取り組みであった。

キーワード：コミュニティ・ケアリング, ケアリング, FAU

1. はじめに

2017年3月26日から4月2日までの間、徳島大学と学術交流協定校として連携協定を締結しているフロリダアトランティック大学看護学部 (Florida Atlantic University, Christine E. Lynn College of Nursing (以下、FAU) において視察を実施した。視察の目的は、コミュニティにおけるケアリング活動についての取り組みを知ること、コミュニティヘルスナーシングを専門としケアリングの研究者である Charlotte Barry 教授にコミュニティ・ケアリングについて教授していただくことである。

FAU は、ケアリング理念のもと看護教育課程カリキュラムが構築され、博士課程・修士課程は米国のランキングにおいて上位に位置づいている。教員たちがケアリング理念に基づきコミュニティの人々を支援している。この取り組みを理解することは、著者らの研究目的であるコミュニティにおけるケアリング概念について明らかにする一助となると考えた。

なお、本視察調査は、FAU の Charlotte Barry 教授にコーディネートしていただき、FAU が関与しているコミュニティにおける活動を視察したり教員たちから情報収集した内容について報告する。

2017年10月13日受付

2018年3月14日受理

別刷請求先：岩本里織, 〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15
徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域看護学分野

2. 大学や大学教員が取り組むコミュニティにおけるケアリング活動

1) Christine E.Lynn College of Nursing Community Health Center at West Gate の取り組み内容

Barry 教授と FAU のスタッフであり且つ本センターの管理者である Eugenia Millender 准教授および Lesley Decker 事務補佐の案内により、FAU がウエストパームビーチのウエストゲイト地域に設立したコミュニティヘルスセンターの視察を行った。



写真1 センターの外観

このウエストゲイト地域は、貧困層が多く居住し、医療機関へのアクセスが難しい者が多い。そのため、Barry 教授の主導により、この地域の住民たちへの医療のアクセスを高める目的で、2014年に小学校の隣の敷地にコミュニティヘルスセンターを開設した。一旦は助成金がなくなったことにより閉所したが、再度助成金を確保し再開された。Barry 教授は、本センターが小規模であるので、さらに施設の拡大をしたいと考えているという。

著者らが視察した木曜日は、Millender 准教授の診察日であった。彼女は精神看護を専門とする FAU の准教授であり NP (Nurse Practitioner: 以下 NP とする) である。本センターでは、Millender 准教授をはじめとする専門の異なる 3 名の NP が交替で診察をしている。

センターには、2名の男性が受付をしており、来所者の受付や電話予約の対応などをしていた。受付では、患者に調査票の記入を依頼するが、これは患者の全体像の把握と研究のデータとしても用いるという。受付後は、ソーシャルワーカーが問診票に基づき問診を行い、その後 NP が診察をし、処方をする (NP は、一般的な薬

物についての処方権を持つ)。

本センターへの来所患者は 1 日 25 人程度であり、英語のみならず多様な言語を話す者が受診するため、スタッフたちは多言語での会話が可能な者が多く、また調査票も多言語対応バージョンを準備されていた。

Millender 准教授によると、ここでの診察を通し、コミュニティの人々のニーズは変化しており、メンタルヘルスに関連する疾患や慢性疾患を抱える人々が増加していると感じるという。NP が診察をするメリットは、医師は、多くの人を診察しなければ診療報酬による利益が得られないために、診察時間が 5-10 分と非常に短い。NP の診察は比較的長い時間をかけゆっくりと話が聞けるため全人的なアセスメントができることであるという。



写真2 左から Dr. Barry, Ms. Decker, 岸田先生

本センターは、センター内の診察だけではなく、コミュニティでのアウトリーチ活動を行っており、例えばスーパーマーケットに出向き糖尿病のスクリーニング検査をしたり、ホームレスのシェルターでは 1 週間に 2 回のメンタルヘルスと身体状況のチェックを行うなどを行っているという。

米国では、医療保険の加入がない場合の医療機関受診は、診察が 200 ドル、投薬が 50 ドルほどと非常に高い。貧困層は医療保険への加入がない者が多く、医療へのアクセスが困難になるという。その背景として、米国にはメディケア、メディケイドの制度があるものの、低所得者を対象とするメディケイドであっても特定の人 (著しい貧困層と高齢者など) しか加入できず、無保険の人々も多い状況があるという。このような医療サービスを平等に受けられない人々に対して、FAU が主導し、地域にヘルスセンターを設立し、人々の医療や健康の保持に

貢献している。さらには看護学生たちがここで実習をすることでコミュニティにおけるケアの経験を積むことができ、教員たちの研究フィールドの一つでもあり、実践と研究が連動されたセンターである。

2) Louis and Anne Green Memory & Wellness Center による取り組み

本センターは、2001年に国立衛生研究所の助成金により開設された。2004年に現建物へ移転され、その際に多額の資金をLouis and Anne Green（本センターの名称になっている）から寄付された。本センターは、認知症などの記憶障害を患う方やその家族の方への包括的ケアサービスを提供すると同時に、調査研究機関であり、さらに看護、医学、運動科学、コミュニケーション障害、健康管理といった分野の学生たちの実習の受け入れ先にもなっている¹⁾。



写真3 外観

センターはFAUの敷地内にあり設立運営はFAUによるものであるが、大学からの資金提供はなく、利用者からの利用料と寄付などによる独立採算である。本センターの管理者は看護学部の教員が兼務しており、スタッフは、NPが4～5人、看護師が3人（2人はRN（Registered Nurse）、1人はLPN（Licensed Practical Nurse））、その他のスタッフが30人、ボランティアが40人ほどである。大学が位置するボカラトン市には裕福な人々が多く、ボランティアの人材も豊富であるという。受け付けをしていた年配の女性（写真4）は、現在96歳であり12年間も受け付けボランティアを続けているという。この女性は利用者一人ひとりや迎えに来た家族の顔も覚えており、本センターの玄関にて笑顔で利用者や家

族に対応されていたのが印象的であった。



写真4 受付の女性（左）と岩本

本施設の利用料は、一人1時間12ドル、送迎バスの利用は片道3.5ドルである。1日の利用時間は人により異なっており、4時間の者もいるし8時間の者もあり、それぞれの事情によりフレキシブルに利用できるのもメリットである。本センターの1日の利用者は平均30～35人、年齢は若い方で52歳、最高齢が77歳であり、登録者は全員で120人程であるという。提供されているサービスは、総合的な記憶能力と健康評価、神経心理テスト、総合的な運転能力の評価、アダルトデイセンター、カウンスリング/心理療法、理学療法などである¹⁾。

フロリダ州では、284施設のデイケア施設（全体の受入人数は15,012人）があるというが、本センターのように大学が設置しているものは他にはなく、さらに他の施設は30人程の小規模施設が多いという。本センターの利用料は比較的高額であるが、ボカラトン周辺は裕福層が多く、利用者が多い。本センターの利用にあたっては、サービスによってはメディケアやメディケイド加入者であれば、一部の支給がされる場合もある。

著者らが訪問時には、高齢者がインストラクターと共にチェア運動を行っていた（写真5）。また別室では、認知症の高齢者の方々が、認知症の重症度によって2つの部屋に分かれ、ゲームをしていた。センター内には多くの認知症の高齢者の方々が描かれた絵画が装飾されており、絵画が得意な方は絵を描いたり（写真6）、手芸をしている。認知症の高齢者の方が描いた絵を絵葉書にして販売しており、ユニークな取り組みと思われた。

運営者である大学（看護学部）は、単に認知症高齢者にサービス提供するのみではなく、本センターを拠点と



写真5 集団のチェア体操



写真6 認知症高齢者が描いた絵画



写真7 アタマジラミのぬいぐるみと薬

した高齢者ケアに関する研究活動を行っている。そのため、本施設を利用する利用者・家族に対して、研究の同意を得ているという。

大学の看護学部が、このようなセンターを運営する意義としては、認知症の高齢者ケアについてエビデンスに基づくケアの提供ができ、さらに新たなエビデンスの開発を行うことができるということであろう。

3) Head Lice solutions での取り組み

アタマジラミのケアをしている「Head Lice solutions」という施設²⁾へ、Shirley Gordon教授の案内により行った。Gordon教授はスクールナースであり、子どもたちのアタマジラミの調査研究をしており、定期的に本施設でスタッフと共にアタマジラミの対策について検討したり、データ収集をしているという。本施設はGordon教授が中心となって大学により運営されている。

米国の学校ではスクールナースが、親に対して1週間に1回は子どものアタマジラミの有無をチェックするように教育し、スクールナースも子どもたちのアタマジラ

ミの有無をチェックする。家族に一人でもアタマジラミが見つかり、他の家族員もアタマジラミの発生していることが多く、家族と共に本施設へ来所するよう指導される。学校に通っている児童生徒は、スクールナースの紹介でアタマジラミチェックに本施設へ来所する。本施設の1日来所者数は、時期により異なり、学校の開始時や休暇時などは学校がアタマジラミのチェックを勧奨するために、非常に多くの児童・家族が来所するということがあった。本施設は、アタマジラミのチェックと駆除の処置を実施しており、費用は、アタマジラミのチェックが1ドル、アタマジラミを取り除く処置が25ドルである。

本施設を視察した際には、4、5歳くらいの女子と母親、17歳の男子と姉および母親の家族の合計2組が来所し、アタマジラミのチェックを受けていた。4、5歳の女子には数匹の生きたアタマジラミが見つかり、もう一組の家族には母親と男子にアタマジラミが見つかった。

Gordon教授によると、米国では62,000万人/年がアタマジラミに罹患しており、原因は衛生上の問題によるという。フロリダは裕福層も多いが、一方で貧困層の人々も多く、生活レベルが2極化している。貧困層の中には、車中での生活をしていたり、子どもに十分な食事を与えられない者もあり、このようなアタマジラミの問題が生じている。Gordon教授が震災後の福島県で子どものシェルターでボランティア活動をしていた際にも、日本の子どもの多くにアタマジラミが発生していたのをケアしたと言い、日本においても無関心ではいけない。

Gordon教授を中心とするこの活動は、コミュニティの子どもたちにアタマジラミが発生しているという問題に対して、スクールナースと共に取り組んでいるもので

あった。



写真8 Lice solutions の処置室

4) Light of The World Clinic での取り組み

Light of the World Clinic は、1989年にアーウィン・エム・バスケス博士と他の地域の指導者によって設立されたという。このクリニックが設立された地域であるブララード郡は、スパニック系の人々などの低所得の中産階級の住民が多く、医療保険の加入や財産がないため、適切な保健・医療へのアクセスを妨げられている状況がある。このクリニックでは、人種、色、宗教、性別、国籍に基づく差別、出身、年齢、婚姻状況、政治的所属、家族の地位、性的指向などに限定されない公平に医療と予防的医療サービスを提供している³⁾。

クリニックの運営は、寄付によるものであり、スタッフは、正規雇用者は6名のみで、その他は専門職ボランティア約30人、ボランティア約300人により運営されている。専門職ボランティアの中には、近隣の病院のレジデンス医師が3名おり、診察のサポートをしていた。また薬物については、製薬会社からの寄付や安い金額で仕入れ、患者に安価で提供しているという。

FAUの教員である Lynne Palma 准教授は、糖尿病専門看護師であり、クリニックにて毎週2～3日間の診療し、低所得層の人々へのヘルスケアサービスの提供にあたっている。1日10～12人の患者を診察し、一人の患者の診察時間が1時間ほどになることもあるという。著者らが訪問時には、ポルトガル語を話す男性が喘息のために診察を受けていた(写真9)。

Palma 准教授によると、本クリニックを受診する患者の80%がスペイン語を話す者であり、ほとんどが保険外の診療であるという。この地域はメキシコからの移住者



写真9 Dr. Palma (右) と患者

が多いためである。移住者の中でも住民登録がある場合には医療保険の適応になる。本クリニックでは住民票を持たない者、つまり住民登録がない者の受診が多いということであった。Palma 准教授は、研究助成金を得ているため研究活動も兼ねて、本クリニックでの診療をしているという。



写真10 クリニックの受付の方たち

このような Palma 准教授やその他の看護師や医師、その他の医療専門職やその他のボランティアの方々の協力体制により、本クリニックは、移民等の医療へのアクセスが困難な人々への無料で医療の提供を行っていた。

5) ホームレスの人々へのフットケアの実践

教員の Andra Opalinski 准教授からは、彼女が取り組んでいるホームレスの方に対するフットケアについて紹介を受けた。彼女は、小児看護の専門であるが、年に1回教会でホームレスを対象にフットケアの取り組みをしている。本取組は、視察ではなく彼女から写真や資料に

よる口頭による紹介であるが、非常に興味深い活動であった。

Opalinski 准教授によると、フロリダ州は気候がよいため大学周辺地域に約2,000人ものホームレスがいるという。ホームレスは高血圧や糖尿病などの罹患者が多く、急性期医療が必要な者も多いという。この地域には、ホームレスが無料で受けられる公的サービスが提供されているが、その利用を拒む者も多いという。そのために、大学や医療機関、教会などが共同で、年に1回のフットケアのイベントを実施しているという。昨年度はこのイベントに約175人のホームレスが訪れたという。イベントでは、食事の提供とフットケア(足浴、足の爪切りなど)をし、その後に靴下と靴のプレゼントをする。靴下メーカーがスポンサーとなり靴下の寄付があるが、靴は大学の職員などから寄付を求めるといふ。われわれが大学を訪問した2週間後にはそのイベントが予定されており、職員のミーティング時に教員に向けてお金もしくは不要な靴の寄付を呼び掛け集めていた。またこのイベントにはFAUの学生たちもボランティアで参加するという。

このように教員が、病院や教会などいろんな組織と協働し、コミュニティのホームレスの存在に目を向け、彼らのニーズに沿った支援をしていた。

3. まとめ

今回、コミュニティにおけるケアリング活動について、先進地であるFAUが実施したり協力している活動の視察を行った。これらの活動の背景や意義などについて考察する。

米国は2014年から医療保険制度改革法(Patient Protection and Affordable Care Act)により国民皆保険に向けて段階的取組が開始され一定の成果を得ているが、2015年時点でも9.1%の無保険者がいるという⁴⁾。このような無保険者は、貧困層や、他国からの移民などが含まれており、医療へのアクセスが困難という不公平が生じている実態がある。FAUの看護学部の教員たちは、不利益を生じているコミュニティの人々のために、ケアリングに基づいた看護専門技術を活かした支援活動を提供していた。もちろんそれは単なる支援のみではなく、大学研究者として研究的介入を加えながら新たなエビデンスを構築する取り組みが同時に行われている。さらに学生たちの実習の場としても活用されている。教育・実践・研究の3つが切り離されず連動しており、ま

さに一石三鳥の活動が展開されていた。

看護職の専門技術が十二分に活かせる背景として、米国におけるNP制度が大きいと感じた。NPは、患者の診療が可能であり、また一般的な薬の処方権を持つために、医師がいなくても診療や投薬が可能である。そのため医療アクセスが不十分なコミュニティに対して看護師が独自にクリニックの開設を行い、診療し処方するなどの支援することができるのである。

一方、これらの活動の課題としては、活動資金の確保である。その多くが脆弱な人たちへの無料や低料金でのサービス提供であるために、活動により収益を得ることはほとんどない。そのため活動に関わる教員たちは、研究助成金を確保しながらこれらの活動継続のために努力をしていた。

FAUにおいては、大学教員として学生の教育はもちろんだが、コミュニティにおいてケアリング理念を基盤とした実践を通し調査研究を進めており、研究成果はさらに実践活動や教育への貢献へと繋がり連動していた。米国と日本では、大学のシステムや保健医療システムなどが異なることから一概には同様の活動を行うことが難しいものの、FAUの教員たちの取り組みから、大学で働く看護職として、ケアリングの理念を持ち、コミュニティの人たちへ直接的なケアの提供をしながら、教育や研究へ活かしていくという役割を担うことも重要であると感じた。

本視察に快くご協力いただきました。FAUの教職員の皆様には感謝いたします。なお、本稿で使用した写真については、撮影時に本人の許可を得ました。

本視察調査は、科学研究費(16K12339)により実施した。



写真11 左から、岩本、岸田、Dr.Barry、Dr.King、学生、学生、学生

文 献

- 1) Florida Atlantic University, Christine E. Lynn College of Nursing HP
[<http://nursing.fau.edu/outreach/memory-and-wellness-center/>] (2017.10.3アクセス)
- 2) HeadLice solutions HP
[<http://www.simpleheadlicedolutions.com/>]
(2017.10.3アクセス)
- 3) Light of The World Clinic HP
[http://www.flafreeclinic.org/clinic_page0.aspx] (2017.10.3アクセス)
- 4) 上野まな美, オバマケアからトランプケアへ向かう米国, 大和総研, 2017.
[http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20170425_011934.pdf] 2017.10.3アクセス)

A Scholarly Report of the Educational Visit to Florida Atlantic University with Scholars of Caring Concerning Programs of Community Caring in Nursing.

Saori Iwamoto¹⁾, Sachi Kishida¹⁾, Charlotte Barry²⁾, and Locsin Rozzano¹⁾

¹⁾*Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University*

²⁾*Florida Atlantic University, Christine E. Lynn College of Nursing*

Abstract This report contains the goals and explanations for the educational visit to Florida Atlantic University (FAU). The aim of this visit was to investigate the activities in the community that FAU faculty members were actively engaged. This visit was conducted in collaboration with the bilateral agreement between Tokushima University and Florida Atlantic University.

Florida Atlantic University Christine E. Lynn College of Nursing has facilities that foster community involvement and caring within Palm Beach County in Florida. The Community Health Center at West Gate was established and operated by FAU particularly for lower-income families who live in the vicinity. These families have little access to health care systems and their only means of seeking health care is through this center.

Another clinical practice setting is the Louis and Anne Green Memory & Wellness Center. It is a daycare facility for older persons particularly those with memory problems, and mental disturbances and/or dementia. The center was founded and is operated by FAU within the premises of the university.

The Head Lice Solutions is a health care initiative that focuses on the treatment of head lice basically among children in schools. The center is supported by a member of the FAU faculty, who is an expert on head lice as a school nurse.

The Light of The World Clinic provides health care to people in the area who have little access to care. A faculty member, who is also a nurse practitioner, runs a consulting room at this clinic.

These activities are intended to benefit communities within the area of responsibility at the vicinity of Florida Atlantic University. FAU has their goal which is to eliminate inequalities among those who suffer from health disadvantages, and address health issues when they arise in the community. The university promotes the combination of research with practice, and the project is also used as an educational facility for students. Overall, these functions create benefits for students' and residents' health and well-being.

Key words : Community Caring, Caring, FAU, Faculty of Nursing